

第十四景

大阪府立中之島図書館

14

図書館、というより近代建築のスーパースター。

1904(明治37)年に竣工した石造りの外観が放つ、華やかさと重厚さのオーラは、国内三千を超える図書館の中でも「別格」の感があります。大阪を代表する重要文化財で、普通に本が借りられて読めるしあわせをめいっばい味わってください。



横長のプレートに「菅公」など8人の名前が刻まれている

その名も「大阪図書館」の正面玄関

建設のきっかけとなったのは住友家15代当主住友吉左衛門友純(ともい)の熱意。建物の建設費だけでなく図書購入費用まで寄付し、自ら立ち上げを命じた住友家臨時設計部に設計を託しました。ルネッサンス様式の外観。コリント式円柱に支えられる正面はギリシア神殿を思わせる造りで、右から「大阪図書館」の文字。開館した1904(明治37)年以前には、大阪にまともな図書館がなかったことを示しています。大事業の顔でもあるこの正面玄関はしばらく「開かずの扉」となっていたことが、2015年から一般の入退場も可能となりました。ここから入ると気分のアゲアゲ感が違います。

世界八哲人に大阪ゆかりの「あの人」も

中央ホール・ギャラリー上部の中間帯に描かれている世界の賢人(八哲)は、孔子、ソクラテス、アリストテレス、シェイクスピア、カント、ゲーテ、ダーウィン……と歴史上の偉人が名を連ねていますが、もう一人は日本から、菅原道真公。さすが、天神さまの本場・大阪です。



本館と左右両翼が1974(昭和49)年、重要文化財に指定された

蔵書と業務に中之島「らしさ」満載



新聞の5大紙は普通に読めるし、PC持ち込みが可能な席も増加。エントランスもシブい

大阪の行政・文化・経済の中心である場所柄、大阪の史料(古地図や版画、書など)の充実ぶりが際立っています。戦前に大ヒットした雑誌『上方』のバックナンバーも全巻読めます。また、「ビジネス支援サービス」は、膨大なデータベースを使って業界・市場動向や企業情報が調べられるだけでなく、「社史」の蔵書が有名。地元企業に社史寄贈を呼び掛けています。

大阪府立中之島図書館

▶ 北区中之島 1-2-10
☎ 06-6203-0474
9:00~20:00(土曜~17:00)
日・祝・3・6・10月の第2木曜、年末年始休

MINI COLUMN カフェ、展示室、レンタルスペースも

図書館では大阪の歴史や文化に関する展覧会や館主催の関連講座、また「ナカノシマ大学」などの市民講座や絵画展なども頻繁に開催されています。2階南側には、北欧のオープンサンド「スモーブロー」をテーマにした洒落たカフェレストランも2016年にオープンし、中之島の名所として定着。図書館に行く楽しみが増えました。



カフェへの案内板も実にキュート

第十五景

日本銀行大阪支店

15

御堂筋に残る、唯一の明治建築

大江橋と淀屋橋の間、御堂筋沿いに明治建築の偉容を今に残す日銀大阪支店があります。竣工したのは、内国勧業博覧会が大阪で開催された1903(明治36)年のこと。御堂筋に面した旧館は、猛スピードで近代化する日本と大阪の経済を120年近く、同じ場所で見守ってきた「ザ・中央銀行」な建物です。



人が歩いていない一瞬を狙ったカット。昼間は歩く姿が途切れない

設計は中央公会堂と同じ「あの人」

大阪支店は日銀開業の2か月後の1882(明治15)年12月、今橋に開設。2年後に大川町(淀屋橋の南詰あたり)に移転し、1903(明治36)年に現在地に新築移転しました。外壁に花崗岩を使い、ベルギー国立銀行をモデルにした、古典主義の流れを受けた建物で、辰野金吾らの設計によります。その後、東京駅や中央公会堂などの「赤レンガ建築」で名を馳せた同じ建築家というのがちょっと意外ですね。

MINI COLUMN 旧館の偉容をぜひ見学して

1982(昭和57)年に老朽化と地盤沈下で建て替える際に、地元だけではなく、文化庁からも保存の要望があり、外壁の石積みやドームの外観はそのまま残しました。2階の貴賓室はドーム屋根の真下にあたり、ステンドグラスを施した天井は8メートルの高さ。チーク材の壁面彫刻や暖房器具を装飾するマンツルピースなどと凝っています。見学ツアーがあります。

※見学は無料。事前予約制。詳細は日銀大阪支店ホームページ(<https://www3.boj.or.jp/osaka/>)から。



日本銀行大阪支店

▶ 中之島 2-1-45
☎ 06-6206-7742